

奈良労働局「働き方改革推進本部」だより

奈良労働局では、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得促進をはじめとした「働き方改革」の実現に向けて、伊達浩二労働局長を本部長とする「働き方改革推進本部」を設置し、県内の経済団体等・企業経営者に対して、自主的な働き方の見直し（「働き方改革」）を推進しています。また「働き方改革」の一環として、労使協調の下、年次有給休暇の計画的付与制度の導入や、土日・祝日に年次有給休暇を組み合わせる「プラスワン休暇」の実施を推進しています。

平成31年2月12日

県内企業経営者に「働き方改革」取り組みを要請

この日は、県内の企業経営者に対する働きかけとして、伊達本部長が天龍化学工業株式会社（本社：磯城郡三宅町）を訪問して、吉田代表取締役社長に要請書を手渡し「働き方改革」の取り組みに関する協力要請及び意見交換（懇談）を行いました。

（1）訪問企業の紹介

天龍化学工業株式会社は、昭和36年創業、磯城郡三宅町に本社工場、北葛城郡広陵町に広陵工場を置き、プラスチック製品を製造する企業。

交替勤務制における時間外労働の削減、女性・外国人技能実習生などの多様な人材の活用、社内イベントを通じたチームワーク・リーダーシップの育成など「働き方改革」に取り組んでいる。



天龍化学工業株式会社 広陵工場

（2）働き方改革に関する意見・取組の内容

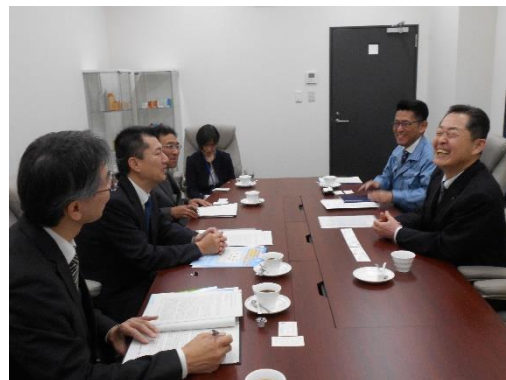
- 「働き方改革」については、単に職場で残業時間を減らしたり、年休を増やしたりするだけでは駄目で、ライフスタイルやものの考え方といったところから変えていなければ実現は難しいと考えている。日本は資源の無い国なので、働くことをしなくなると貧乏な国になってしまう。社長として労働時間を削減しながらも、いかにして会社として発展し、従業員の給料を増やしていくかを考えていきたい。

また、物事を変えていこうとするときには、慣習にとらわれず物事を合理的に判断する人間と、以前からの慣習にこだわる人間とに分かれる。「働き方改革」を進めるためには、今のタイミングしかないと考えている。



吉田社長（左）に
要請書を手渡す伊達本部長（右）

○休暇について、当社は毎年新卒を採用しているが、若者の意識が変わってきていると感じる。以前に比べ給料より年休が取れるかどうかなどを重視している。私は機会がある度に年休を取るよう言っているが、取らない者は取らない。また、取らない者に限って健康状態に心配があったりするので、従業員の健康面からも取得を促進したい。余談ではあるが、年休の取得率が低い会社には会社自体にそういった考え方が染みついているという指摘を家族から受けたところであるので、折角採用した新卒者に会社に残ってもらうためにも、今の若者の考え方に合わせていくことが必要と考えている。



懇談の様子

○今、顧客満足度が第一だと言われているが、私は従業員満足度も大事だと考えている。そのため毎年社員旅行や会社のお祭りを企画している。社員旅行については反対意見もあるが、従業員同士のコミュニケーションの場にもなっており、参加者の評判はいいので、一定の要望がある限りは続けたいと思っている。参加は自由であるが参加率は他社に比べると高いと認識している。



工場見学の様子



製品の説明をされる山岸執行役員